

2018年度決算の概要 及び 2019年度業績予想の概要

三井化学株式会社

2019年5月15日

本資料の業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した予想であり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、実際の業績は今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

目次

1. 2018年度決算の概要	
1) 2018年度 事業概況及びトピックス	…1
2) 決算の概要	…2、3
3) セグメント別 売上高・営業利益の内訳（増減分析 対前年決算）	…4
4) 営業外損益及び特別損益の内訳	…5、6
5) 貸借対照表	…7
6) キャッシュ・フロー計算書	…8
2. 2019年度業績予想の概要	
1) 2019年度のトピックス	…9
2) 業績予想の概要	…10
3) セグメント別 売上高・営業利益の予想（対前年決算）	…11
4) 営業利益推移（17年度決算→18年度決算→19年度予想）	…12
5) 事業セグメントの動向	…13、14
6) 営業外損益及び特別損益の内訳	…15、16
7) キャッシュ・フロー計算書	…17
8) 連結経営データ	…18
3. 補助資料	…19~29

1. 2018年度決算の概要

1) 2018年度 事業概況及びトピックス

<事業概況>

- ◆**モビリティ**： 全般的に原料価格上昇の影響を受けたが、エラストマー、機能性コンパウンド及びポリプロピレン・コンパウンドは、主に海外を中心に自動車部品関連材料の堅調な需要に的確に対応。また機能性ポリマーもICT関連用途の堅調な需要に的確に対応。
- ◆**ヘルスケア**： ビジョンケア材料、歯科材料の販売は堅調に推移。不織布は、日本からの紙おむつの輸出減の影響を受けた。
- ◆**フード&パッケージング**： 農薬は販売が堅調に推移。コーティング・機能材は原料価格上昇の影響を受けた。機能性フィルム・シートは販売が減少するとともに、原料価格上昇の影響を受けた。
- ◆**基盤素材**： 内需堅調継続。ナフサクラッカー等の稼働は、大阪工場用役プラント火災の影響で低下したものの、概ね高水準で推移。一方、ナフサ価格下落により、在庫評価の影響を受けた。フェノールの海外市況は、堅調な需要を背景に前年を上回る水準で推移。

<第4四半期のトピックス>

- ・シンガポールにおける「 α -メチルスチレン」生産
(19年1月発表、20,000トン/年、20年5月完工予定)
- ・北米におけるミラストマー生産設備着工
(19年1月着工、6,000トン/年、19年11月営業運転開始予定)
- ・中国におけるガラス長繊維強化ポリプロピレン生産設備新設
(19年3月発表、3,500トン/年、20年9月営業運転開始予定)

2) 決算の概要

(単位：億円)

摘 要	17年度決算	18年度決算	増減	増減率
売上高	13,285	14,829	1,544	12%
営業利益	1,035	934	△ 101	△10%
営業外損益	67	96	29	—
経常利益	1,102	1,030	△ 72	△7%
特別損益	△ 160	23	183	—
税金等調整前 当期純利益	942	1,053	111	12%
親会社株主に帰属する 当期純利益	716	761	45	6%

為替レート(円/US\$) 111 111 + 0

国産ナフサ(円/KL) 41,900 49,400 + 7,500

配当 (円/株)	中間	* 45	50	+ 5
	期末	45	50	+ 5
	通期	90	100	+ 10

*当社は2017年10月1日付で普通株式5株を1株とする株式併合を行っており、株式併合前の配当金につきましても、遡って当該株式併合の影響を考慮した金額を記載しております。

2) 決算の概要

(単位：億円)

摘 要	18年3月末	19年3月末	増減	増減率
有利子負債	4,637	4,850	213	5%
Net 有利子負債	3,818	3,740	△ 78	△2%
自己資本	5,116	5,519	403	8%
Net D / E レシオ (倍)	0.75	0.68	△ 0.07	—
自己資本比率 (%)	35.7	36.8	1.1	—

(単位：社)

摘 要	18年3月末	19年3月末	増減
連結対象会社数			
連結子会社	115	116	1
持分法適用会社	39	39	0
連結対象会社計	154	155	1

3) セグメント別 売上高・営業利益の内訳 (増減分析 対前年決算)

(単位：億円)

セグメント	売上高			営業利益			増減内訳		
	17年度決算	18年度決算	増減	17年度決算	18年度決算	増減	数量差	交易条件	固定費他
モビリティ	3,310	3,954	644	423	427	4	46	△ 14	△ 28
ヘルスケア	1,391	1,466	75	108	136	28	25	△ 1	4
フード & パッケージング	1,958	1,994	36	199	178	△ 21	△ 6	△ 7	△ 8
基盤素材	6,377	7,165	788	389	278	△ 111	△ 5	△ 26	△ 80
その他	249	250	1	△ 84	△ 85	△ 1	-	-	△ 1
合計	13,285	14,829	1,544	1,035	934	△ 101	60	△ 48	△ 113

4) 営業外損益及び特別損益の内訳

営業外損益

(単位：億円)

摘 要	17年度決算	18年度決算	増減
持 分 法 投 資 損 益	71	108	37
金 融 収 支	△ 7	△ 7	0
為 替 差 損 益	△ 12	△ 4	8
そ の 他	15	△ 1	△ 16
営業外損益 合計	67	96	29

4) 営業外損益及び特別損益の内訳

特別損益

(単位：億円)

摘 要	17年度決算	18年度決算	増減
資産売却益	36	37	1
事業譲渡益	6	7	1
退職給付制度改定益	3	-	△ 3
債務免除益	20	-	△ 20
受取保険金	-	114	114
特別利益計 (A)	65	158	93
固定資産処分・売却損	24	44	20
減損損失	150	14	△ 136
投資有価証券評価損	51	2	△ 49
火災による損失	-	75	75
特別損失計 (B)	225	135	△ 90
特別損益 合計 (A-B)	△ 160	23	183

5) 貸借対照表

(単位：億円)

摘 要	18年3月末	19年3月末	増減	摘 要	18年3月末	19年3月末	増減
流動資産	(7,313)	(7,867)	(554)	負債	(8,441)	(8,694)	(253)
現 預 金	802	1,111	309	買 掛 債 務	1,622	1,639	17
売 掛 債 権	3,069	3,106	37	有 利 子 負 債	4,637	4,850	213
た な 卸 資 産	2,743	3,019	276	そ の 他	2,182	2,205	23
そ の 他	699	631	△ 68				
固定資産	(7,000)	(7,144)	(144)	純 資 産	(5,872)	(6,317)	(445)
有形固定資産	4,329	4,431	102	株 主 資 本	4,856	5,329	473
無形固定資産	315	294	△ 21	その他の包括利益 累 計 額	260	190	△ 70
投 資 等	2,356	2,419	63	非支配株主持分	756	798	42
合 計	14,313	15,011	698	合 計	14,313	15,011	698

注：税効果会計基準改正の影響等により、2018年3月末の貸借対照表残高を組み替えております。

6) キャッシュ・フロー計算書

(単位：億円)

摘 要	17年度決算	18年度決算	増減
I. 営業活動によるキャッシュ・フロー (A)	827	1,095	268
II. 投資活動によるキャッシュ・フロー (B)	△ 751	△ 643	108
フリーキャッシュ・フロー (A + B)	76	452	376
III. 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 102	△ 141	△ 39
IV. その他	△ 15	△ 1	14
現預金等増減	△ 41	310	351

2. 2019年度業績予想の概要

1) 2019年度のトピックス

<トピックス(予定)>

- ・台湾における半導体製造工程用テープ「イクロステーブ™」 営業運転開始
(19年9月、380万m²/年)
- ・日本におけるガラス長繊維強化ポリプロピレン (GFPP) 「モストロン® -L」 営業運転開始
(19年9月、3,500トン/年)
- ・北米におけるガラス長繊維強化ポリプロピレン 営業運転開始
(19年10月、3,500トン/年)
- ・北米におけるミラストマー 営業運転開始
(19年11月、6,000トン/年)

2) 業績予想の概要

(単位：億円)

摘 要	18年度決算 (a)		19年度予想 (b)		増減 (b)-(a)	
	4-9月	年度	4-9月	年度	年度	%
売上高	7,209	14,829	7,450	15,400	571	4%
営業利益	497	934	420	1,050	116	12%
営業外損益	87	96	20	50	△ 46	-
経常利益	584	1,030	440	1,100	70	7%
特別損益	△ 27	23	△ 30	△ 50	△ 73	-
税金等調整前 当期純利益	557	1,053	410	1,050	△ 3	△0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	418	761	280	760	△ 1	△0%
為替レート(円/US\$)	110	111	110	110	△ 1	
国産ナフサ(円/KL)	51,150	49,400	46,000	46,000	△ 3,400	

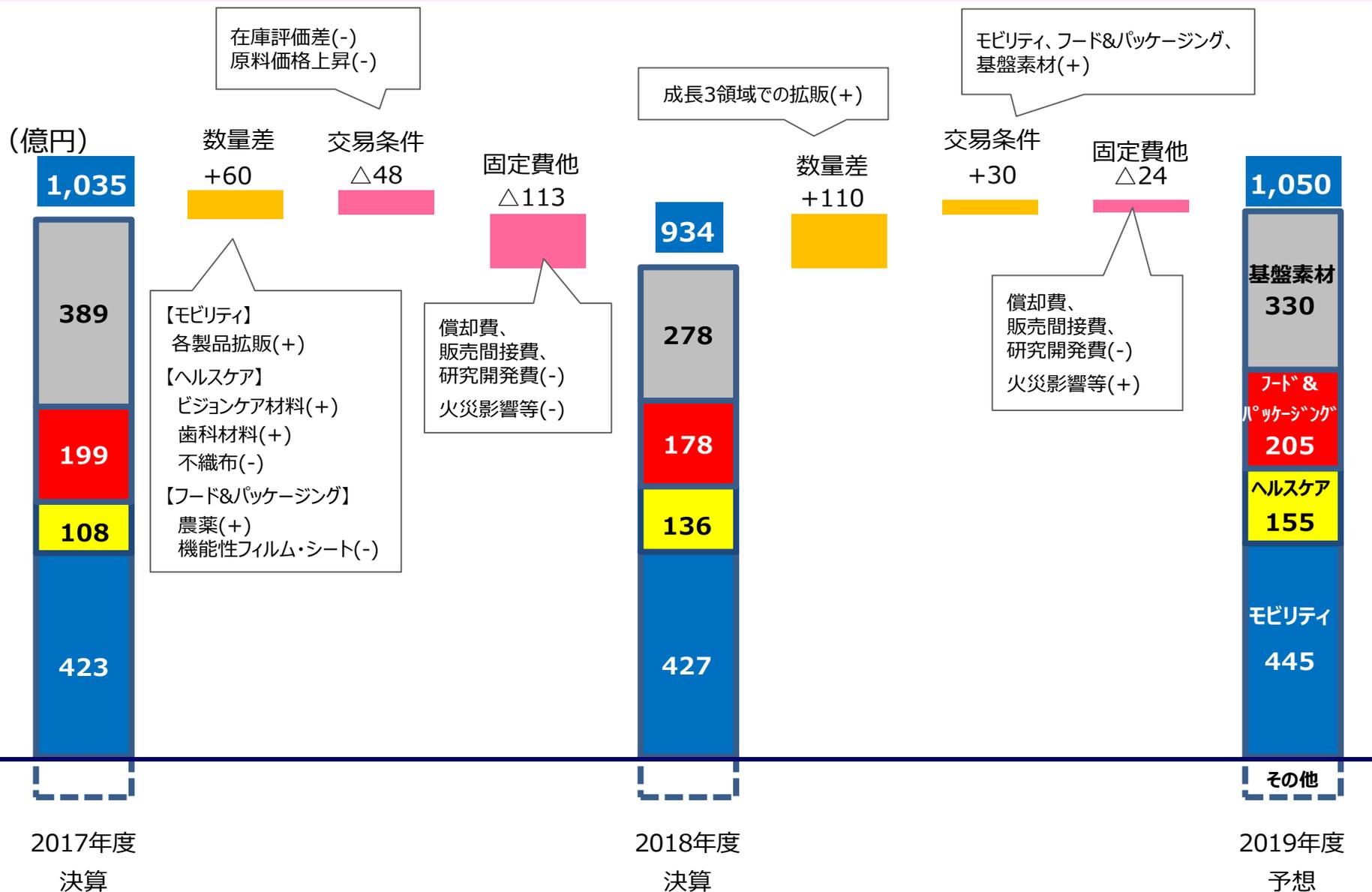
配 当	中間	期末	中間	期末	中間増減	期末増減
	50 円/株	50 円/株	50 円/株	50 円/株	+0円/株	+0円/株
	通期 100 円/株		通期 100 円/株		通期 +0円/株	

3) セグメント別 売上高・営業利益の予想 (対前年決算)

(単位：億円)

セグメント	売上高					営業利益				
	18年度決算		19年度予想		増減 (b) - (a)	18年度決算		19年度予想		増減 (d) - (c)
	4-9月	年度 (a)	4-9月	年度 (b)		4-9月	年度 (c)	4-9月	年度 (d)	
モビリティ	1,952	3,954	2,100	4,300	346	201	427	210	445	18
ヘルスケア	712	1,466	750	1,600	134	63	136	60	155	19
フード & パッケージング	966	1,994	1,000	2,100	106	88	178	75	205	27
基盤素材	3,463	7,165	3,500	7,200	35	184	278	120	330	52
その他	116	250	100	200	△ 50	△ 39	△ 85	△ 45	△ 85	0
合計	7,209	14,829	7,450	15,400	571	497	934	420	1,050	116

4) 営業利益推移 (17年度決算→18年度決算→19年度予想)

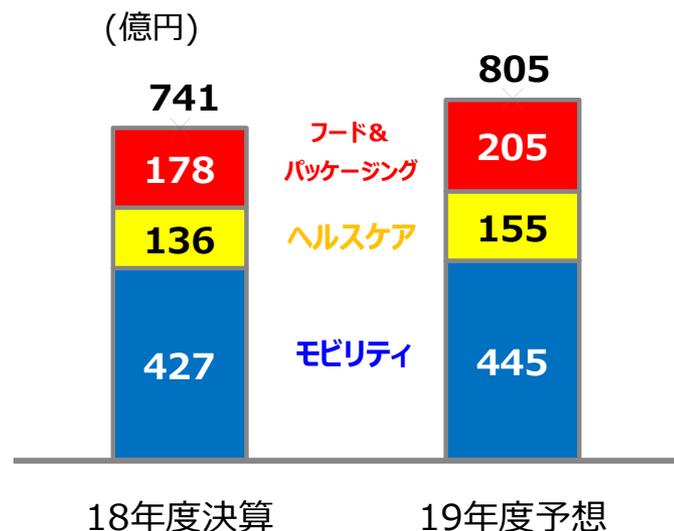


5) 事業セグメントの動向 (モビリティ、ヘルスケア 及び フード&パッケージング セグメント)

<事業環境>

- ◆**モビリティ**: グローバル自動車生産台数は、緩やかに拡大。またICT関連も、当社注力分野は成長継続。
- ◆**ヘルスケア**: ビジョンケア材料の需要は堅調に推移。不織布は需要の回復を見込む。歯科材料は、デジタル製品を中心に需要が拡大。
- ◆**フード&パッケージング**: コーティング機能材、農薬、包装用フィルムの需要は堅調に推移。産業用フィルムの需要は19年後半から回復を見込む。

モビリティ、ヘルスケア 及び フード&パッケージング セグメント

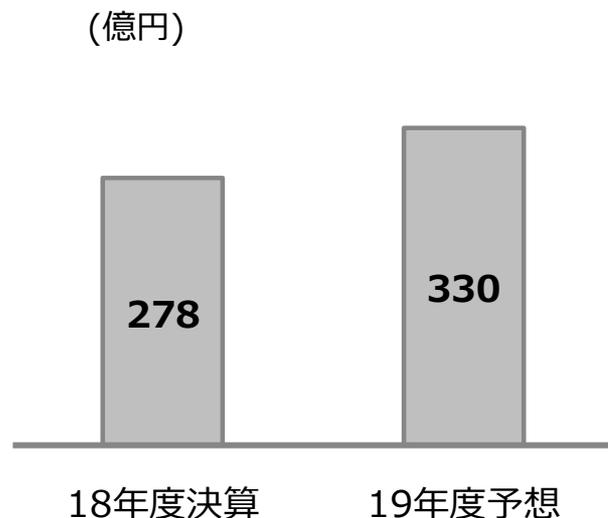


	営業利益の方向感	
	18年度決算 → 19年度予想	
モビリティ	➔	海外PPコンパウンド、エラストマー、機能性コンパウンド、機能性ポリマー拡販(+)、 交易条件(+) 等
ヘルスケア	➔	ビジョンケア材料、不織布、 歯科材料拡販(+) 等
フード&パッケージング	➔	コーティング・機能材、機能性フィルムシート、 農薬拡販(+)、 交易条件(+) 等

5) 事業セグメントの動向 (基盤素材セグメント)

<事業環境>

- ◆国内石化事業については、内需堅調、設備稼働が高水準で推移。
- ◆石化製品の海外市況は軟化を見込む一方、フェノール市況は安定的に推移。



基盤素材セグメント

	売上高割合 (%)	営業利益の方向感	
		18年度決算 → 19年度予想	
石化原料 及び ポリオレフィン	60%	→	交易条件(-)、 火災・トラブル影響(+) 等
フェノール、PTA・ PET、工業薬品	35%	↗	交易条件(+)、 火災・トラブル影響(+) 等
ポリウレタン材料	5%	→	

注) セグメント内訳の数値は、説明を目的とした概算値です。

6) 営業外損益及び特別損益の内訳

営業外損益

(単位：億円)

摘 要	18年度決算		19年度予想		増減 (b)-(a)
	4-9月	年度 (a)	4-9月	年度 (b)	
持 分 法 投 資 損 益	86	108	35	80	△ 28
金 融 収 支	△ 3	△ 7	△ 10	△ 20	△ 13
為 替 差 損 益	8	△ 4	—	—	4
そ の 他	△ 4	△ 1	△ 5	△ 10	△ 9
営業外損益 合計	87	96	20	50	△ 46

6) 営業外損益及び特別損益の内訳

特別損益

(単位：億円)

摘 要	18年度決算		19年度予想		増減 (b)-(a)
	4-9月	年度 (a)	4-9月	年度 (b)	
資 産 売 却 益	2	37	—	—	△ 37
事 業 譲 渡 益	7	7	—	—	△ 7
受 取 保 険 金	—	114	—	—	△ 114
特別利益計 (A)	9	158	0	0	△ 158
固定資産処分・売却損	12	44	30	50	6
減 損 損 失	7	14	—	—	△ 14
投資有価証券評価損	2	2	—	—	△ 2
火災による損失	15	75	—	—	△ 75
特別損失計 (B)	36	135	30	50	△ 85
特別損益 合計 (A-B)	△ 27	23	△ 30	△ 50	△ 73

7) キャッシュ・フロー計算書

(単位：億円)

摘 要	18年度決算		19年度予想		増減 (b)-(a)
	4-9月	年度 (a)	4-9月	年度 (b)	
I. 営業活動によるキャッシュ・フロー (A)	535	1,095	580	1,250	155
II. 投資活動によるキャッシュ・フロー (B)	△ 268	△ 643	△ 530	△ 1,200	△ 557
フリーキャッシュ・フロー (A + B)	267	452	50	50	△ 402
III. 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 120	△ 141	△ 40	△ 150	△ 9
IV. その他	6	△ 1	-	-	1
現預金等増減	153	310	10	△ 100	△ 410

8) 連結経営データ

項 目		18年度決算		19年度予想	
		4-9月	年度	4-9月	年度
為 替 レ ー ト	円/\$	110	111	110	110
国産標準ナフサ価格	円/KL	51,150	49,400	46,000	46,000
設 備 投 資 額	億円	245	619	400	1,050
研 究 開 発 費	億円	177	358	190	380
減 価 償 却 費	億円	243	495	270	530
金 融 収 支	億円	△ 3	△ 7	△ 10	△ 20
期末有利子負債残高	億円	4,670	4,850	4,960	4,950
Net D/Eレシオ	倍	0.67	0.68	0.68	0.65
期 末 従 業 員 数	人	17,640	17,743	18,200	18,200

3. 補助資料

- 1) 製品価格の状況
- 2) セグメントの増減概要（売上高・営業利益）
- 3) セグメント別 売上高・営業利益の内訳（四半期別）
- 4) 主要関係会社の状況
- 5) 財務データ
- 6) 地域別売上高比率
- 7) 2018年度のトピックス

1) 製品価格の状況

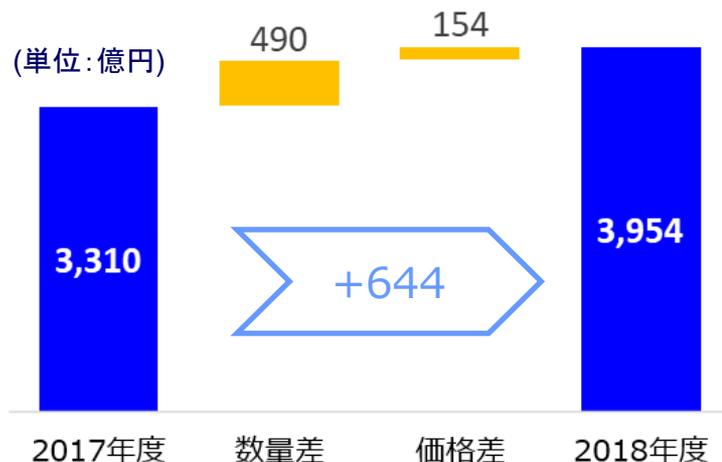
(P E国内、P P国内、P H国内、B P A国内 : 国内価格改定幅)

年		2016年			2017年				2018年				2019年
月		4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
国産基準 ナフ価格	(円/KL)	31,600	31,300	34,100	41,900	39,100	36,100	44,600	47,900	48,800	53,500	54,200	41,200
P E国内	(円/KG)	→	△10円 程度	→	+20円 程度	→	△5円 程度	+10円 程度	+10円 程度	→	+10円 程度	+10円 程度	△15円 程度
P P国内	(円/KG)	→	△10円 程度	→	+20円 程度	→	△5円 程度	+10円 程度	+10円 程度	→	+10円 程度	+10円 程度	△15円 程度
P H国内 (フォーム価格)	(円/KG)	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
B Z (*ACP)	(\$/T)	\$640	\$640	\$670	\$950	\$790	\$770	\$830	\$920	\$850	\$860	\$770	\$580
B P A国内	(円/KG)	→	→	→	+20円 (3月~)	→	→	→	→	→	→	→	→
BZ・BPA市況をベースに都度交渉													
B P A 中国市況	(\$/T)	\$1,140	\$1,130	\$1,170	\$1,360	\$1,200	\$1,220	\$1,420	\$1,670	\$1,800	\$1,810	\$1,550	\$1,450
P T A 中国市況	(\$/T)	\$610	\$610	\$610	\$670	\$630	\$640	\$690	\$760	\$810	\$960	\$910	\$840
P X (*ACP)	(\$/T)	\$800	\$790	\$790	\$890	\$810	\$800	\$890	\$950	\$980	\$1,140	\$1,140	\$1,060
T D I 中国市況	(\$/T)	\$2,080	\$2,360	\$3,590	\$3,480	\$3,500	\$3,680	\$4,380	\$4,470	\$4,150	\$3,400	\$2,480	\$1,730

*ACP アジア圏契約価格

2-1) モビリティセグメントの増減概要 (売上高・営業利益)

売上高増減 (2018年度決算 対 2017年度決算)



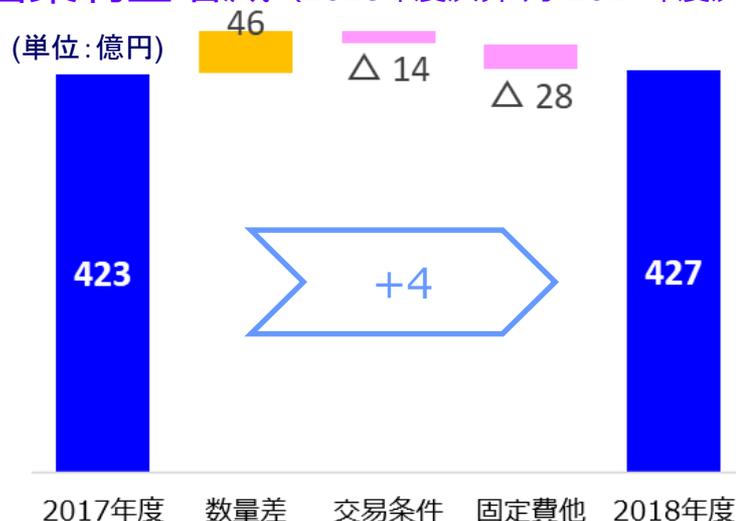
◆数量差 +490億円

- ・自動車用途を中心とした堅調なグローバル需要に的確に対応。
- ・ICT関連用途の堅調な需要に的確に対応。
- ・アーク社新規連結影響等。

◆価格差 +154億円

- ・原燃料価格上昇による販売価格の改定等。

営業利益増減 (2018年度決算 対 2017年度決算)



◆数量差 +46億円

- ・自動車用途を中心とした堅調なグローバル需要に的確に対応。
- ・ICT関連用途の堅調な需要に的確に対応。

◆交易条件 △14億円

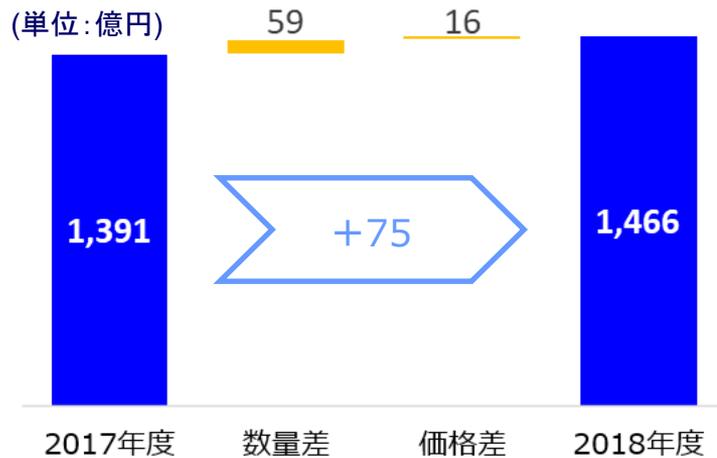
- ・原燃料価格上昇による交易条件悪化等。

◆固定費他 △28億円

- ・研究開発費等の資源投入。

2-2) ヘルスケアセグメントの増減概要 (売上高・営業利益)

売上高増減 (2018年度決算 対 2017年度決算)

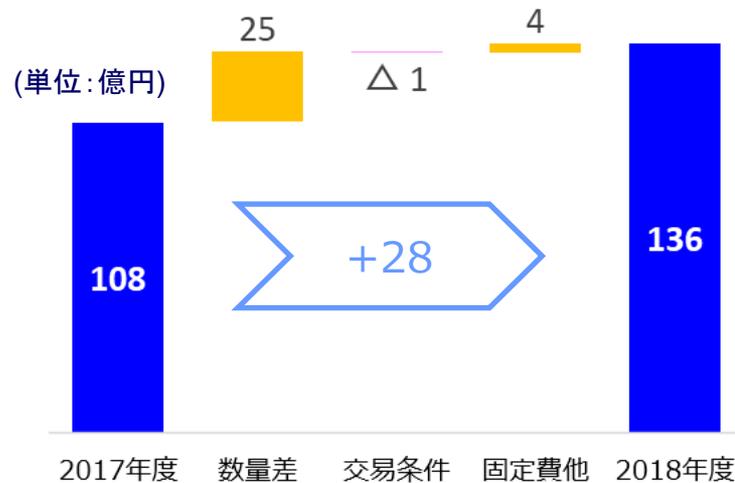


◆数量差 +59億円

・ビジョンケア材料及び歯科材料の販売堅調。

◆価格差 +16億円

営業利益増減 (2018年度決算 対 2017年度決算)



◆数量差 +25億円

・ビジョンケア材料及び歯科材料の販売堅調。

◆交易条件 △1億円

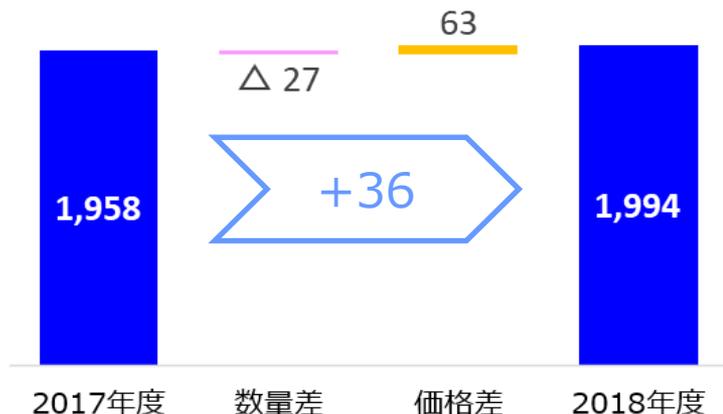
◆固定費他 +4億円

・歯科材料のれん等償却費の減少等。

2-3) フード&パッケージングセグメントの増減概要 (売上高・営業利益)

売上高増減 (2018年度決算 対 2017年度決算)

(単位: 億円)



◆数量差 △27億円

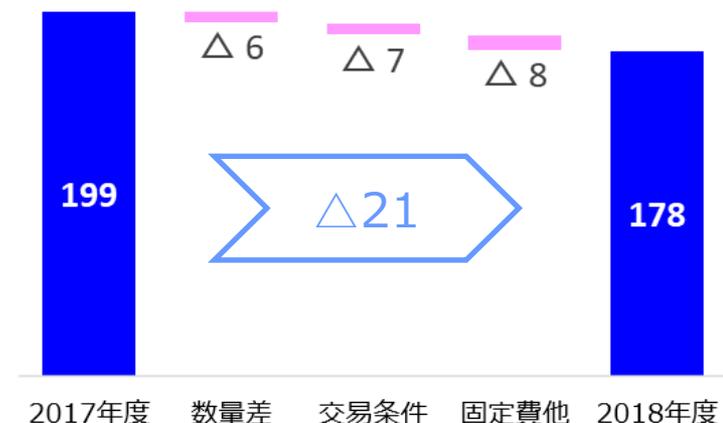
・機能性フィルム・シートの販売減少等。

◆価格差 +63億円

・原燃料価格上昇による販売価格の改定等。

営業利益増減 (2018年度決算 対 2017年度決算)

(単位: 億円)



◆数量差 △6億円

・機能性フィルム・シートの販売減少等。

◆交易条件 △7億円

・原料価格上昇等による交易条件悪化等。

◆固定費他 △8億円

・研究開発費等の資源投入等。

2-4) 基盤素材セグメントの増減概要 (売上高・営業利益)

売上高増減 (2018年度決算 対 2017年度決算)

(単位: 億円)



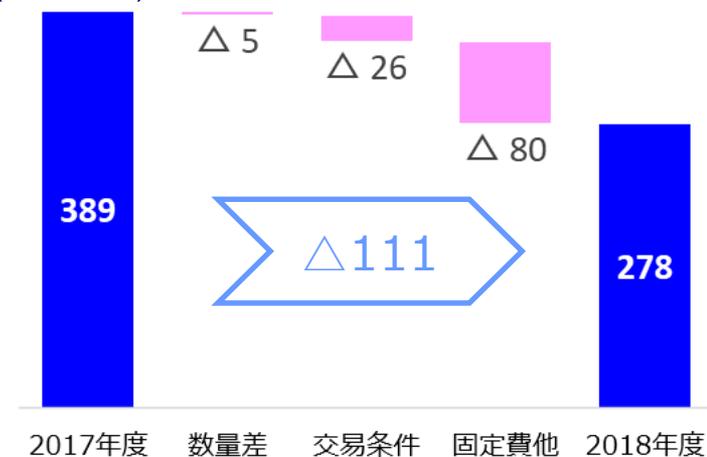
◆数量差 +181億円

◆価格差 +607億円

・原燃料価格上昇による販売価格の改定等。

営業利益増減 (2018年度決算 対 2017年度決算)

(単位: 億円)



◆数量差 △5億円

◆交易条件 △26億円

・在庫評価損等。

◆固定費他 △80億円

・大阪工場火災影響等。

3) セグメント別 売上高・営業利益の内訳 (四半期別)

売上高推移

(単位：億円)

セグメント	17年度				18年度			
	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月
モビリティ	777	757	814	962	973	979	993	1,009
ヘルスケア	342	339	353	357	362	350	385	369
フード&パッケージング	458	492	496	512	475	491	499	529
基盤素材	1,453	1,469	1,668	1,787	1,701	1,762	1,994	1,708
その他	60	62	58	69	52	64	68	66
合計	3,090	3,119	3,389	3,687	3,563	3,646	3,939	3,681

営業利益推移

(単位：億円)

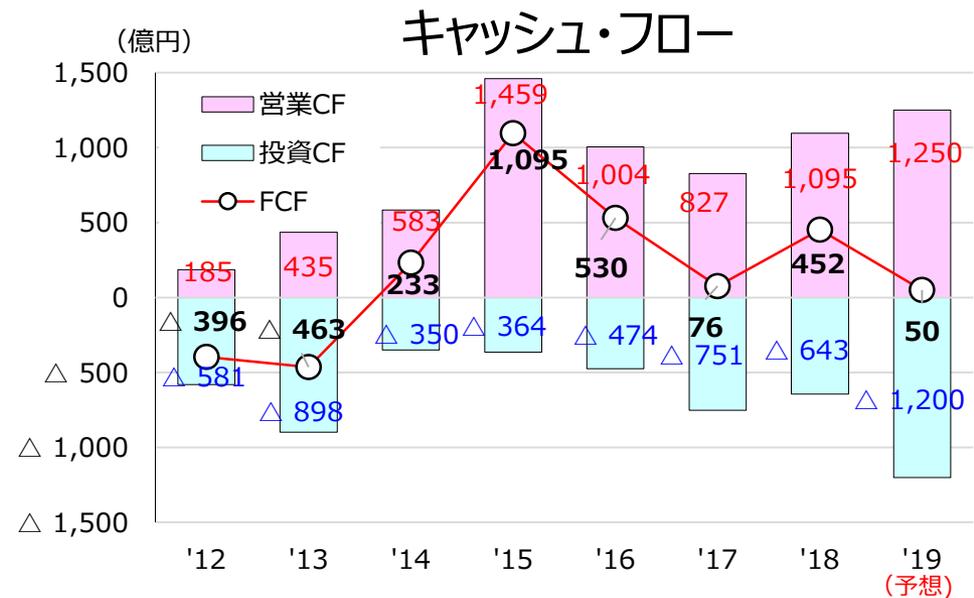
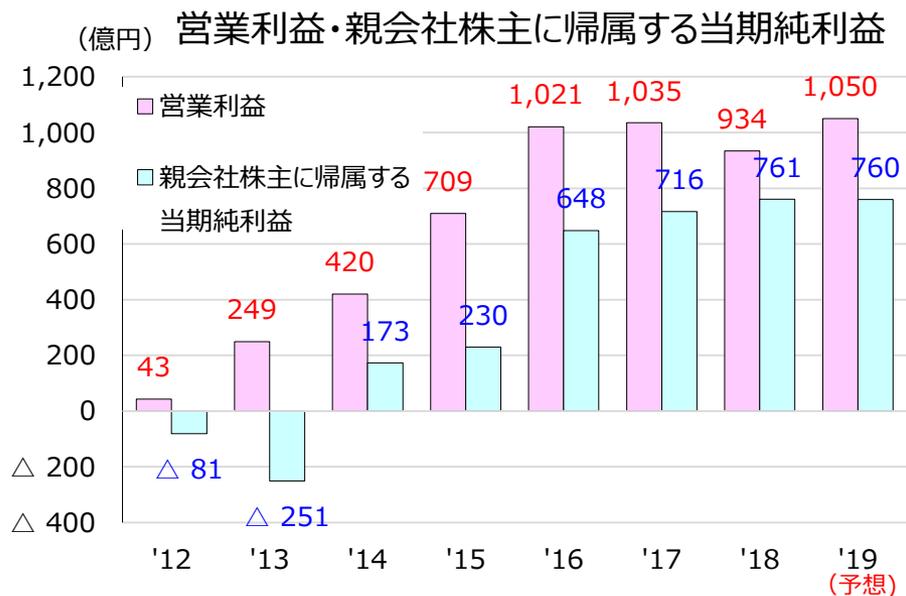
セグメント	17年度				18年度			
	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月
モビリティ	115	105	109	94	108	93	114	112
ヘルスケア	29	19	31	29	36	27	34	39
フード&パッケージング	46	55	44	54	33	55	30	60
基盤素材	108	46	111	124	110	74	91	3
その他	△ 25	△ 16	△ 20	△ 23	△ 24	△ 15	△ 20	△ 26
合計	273	209	275	278	263	234	249	188

4) 主要関係会社の状況

項 目	当社シェア	売上規模	営業利益	
		(18年度)	18年度	19年度予想 ※
連結子会社	%	億円		
プライムポリマー	65.0	2,600	黒字	→ 在庫影響等(-)
アドバンスド・コンポジット	61.8	900	黒字	→ 交易条件(-)
三井フェノールズシンガポール	95.0	600	黒字	→
三井エラストマーズシンガポール	100.0	500	黒字	→
三井化学東セロ	100.0	800	黒字	→
三井化学アグロ	100.0	400	黒字	→
持分法適用会社				
三井・ケムリケミカル	50.0	400	黒字	→
三井・ケムス・フロンティア	50.0	300	黒字	→
上海中石化三井化工	50.0	500	黒字	→ 定修規模差(-)

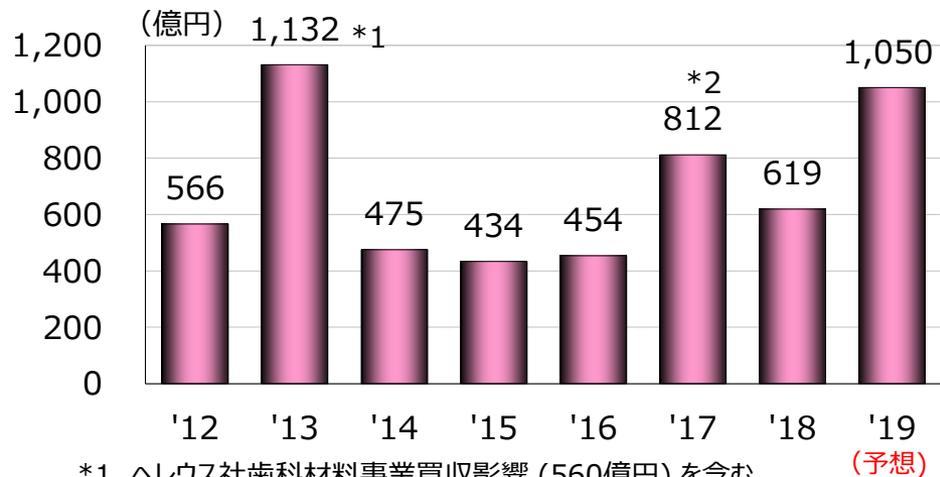
※ 営業利益：→は、対18年度5億円未満の増減。

5-1) 財務データ



5-2) 財務データ

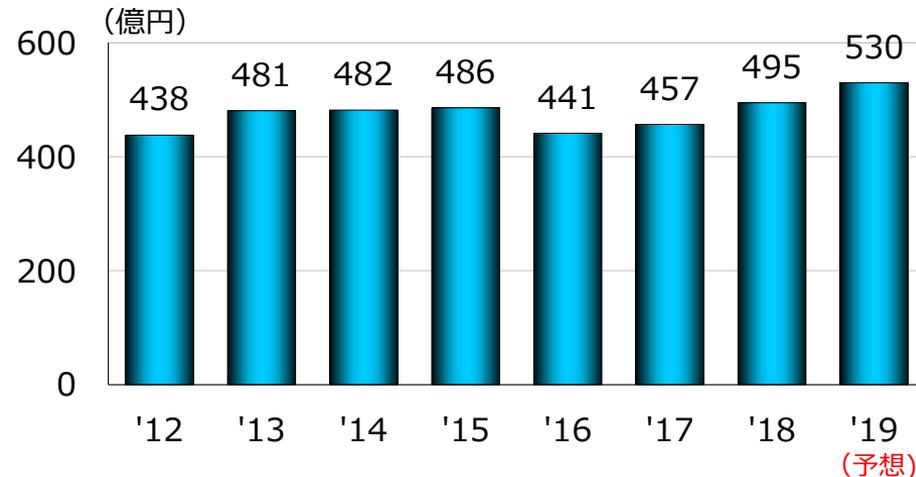
設備投資額



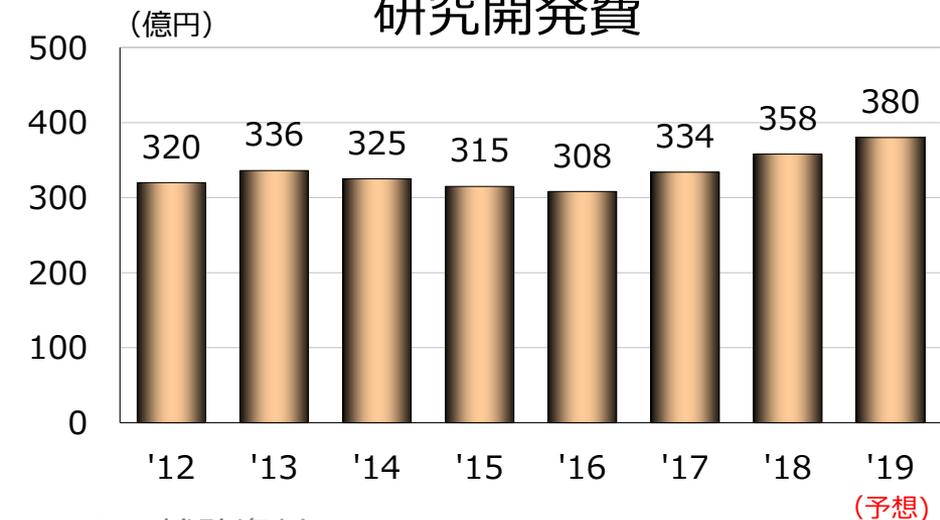
*1. ヘルス社歯科材料事業買収影響 (560億円) を含む

*2. アーク社株式取得影響(239億円)を含む

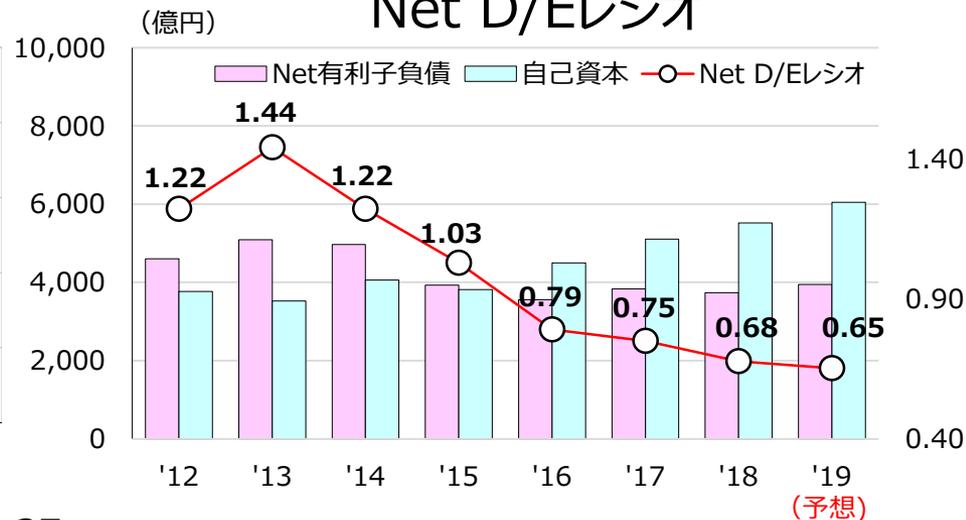
減価償却費



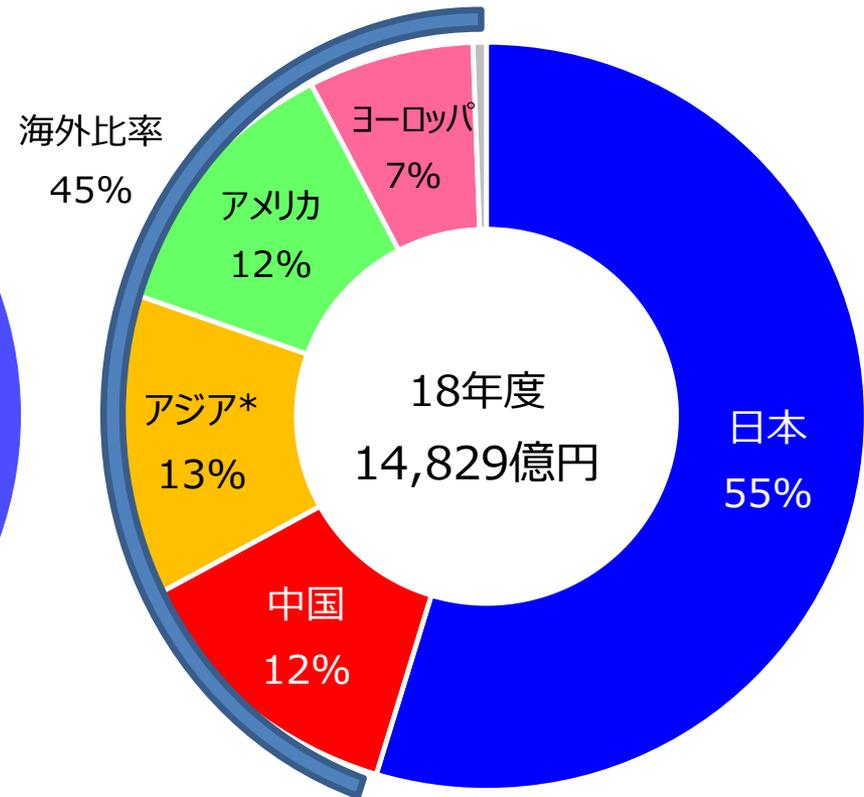
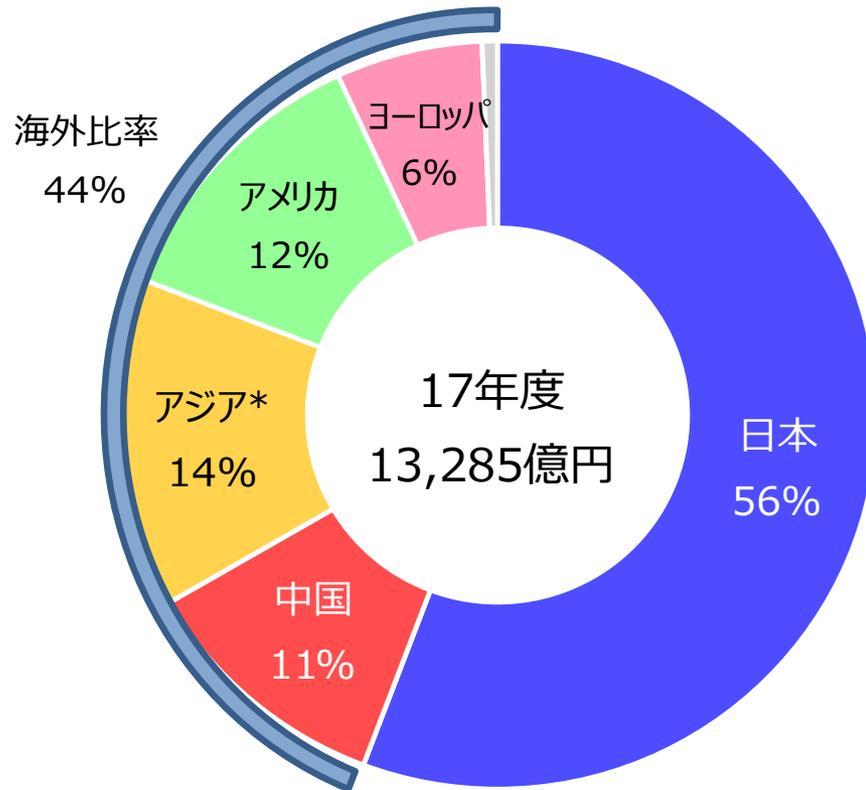
研究開発費



Net D/Eレシオ



6) 地域別売上高比率



* アジア：日本及び中国を除く

7) 2018年度のトピックス

- ・米国 3Dプリンター会社 B9Creations社の株式取得 (18年4月)
- ・人工知能(AI)搭載の歯科用CADソフトウェアの開発に着手 (18年5月)
- ・ガラス長繊維強化ポリプロピレン (GFPP) 「モストロン® -L」生産設備新設 (18年5月発表、3,500トン/年、19年9月営業運転開始予定)
- ・PPコンパウンド オランダに欧州初の自社拠点を設立 (18年6月、3万トン/年、2020年6月営業運転開始予定)
- ・三井化学アグロ Bayer Animal Healthと新規動物用医薬品のグローバルライセンス契約締結 (18年7月)
- ・三井化学SKCポリウレタン インドシステムハウス営業運転開始 (18年7月、1.5万トン/年)
- ・炭化水素系合成油「ルーカント®」生産能力増強 (18年8月発表、2万トン/年、21年2月営業運転開始予定)
- ・高機能エラストマー「タフマー®」生産能力増強 (18年8月発表、+2.5万トン/年、20年7月完工予定)
- ・超高分子量ポリエチレン「ハイゼックスミリオン®」生産能力増強 (18年8月営業運転開始、+1,000トン/年)
- ・北米におけるガラス長繊維強化ポリプロピレン生産設備新設 (18年9月発表、3,500トン/年、19年10月営業運転開始予定)
- ・名古屋工場における高機能不織布設備 営業運転開始 (18年10月、1.5万トン/年)
- ・柔軟性と伸縮機能に優れた高機能不織布設備 営業運転開始 (18年10月、+6,000トン/年)
- ・自己株式取得の決定 (18年11月)
- ・三井化学アグロ JA全農と新規水稻用除草剤サイラ®を共同開発 (18年11月発表)
- ・Siam Mitsui PTA社、Thai PET Resin社 株式一部譲渡 (18年12月)
- ・シンガポールにおける「 α -メチルスチレン」生産 (19年1月発表、20,000トン/年、20年5月完工予定)
- ・北米におけるミラストマー生産設備着工 (19年1月着工、6,000トン/年、19年11月営業運転開始予定)
- ・中国におけるガラス長繊維強化ポリプロピレン生産設備新設 (19年3月発表、3,500トン/年、20年9月営業運転開始予定)



Mitsui Chemicals

新たな顧客価値を創造し、事業活動を通じて、
社会課題を解決する